

昭和56年12月1日発行

第九二号

編集 馬路村教育委員会

印刷 安芸印刷

広報 うまこ



10月末の人口

世帯数	六六五
男	九一三人
女	八六一人
計	一七七四人



↑全国へき地教育研究大会 児童発表

へき地教育

全国大会を終わって

地域や父母の皆さんにご協力があった全国大会、おかげさまで盛会のうちに終わりました。

関係者が三五〇人をごすため、村内の皆さんにいちいちを見ていただけなかったのが残念ですが、子ども達の奮闘はめざましく、講師をはじめ全国の先生方に、たいへんほめられました。

この研究で学校がねらったのは(1)馬路の教育を全国レベルで評価してもらいたい。謙虚に学びたい。(2)へき地性を打ち破るのは、子どもに力をつけることである。(3)その力は、郷土を興し、どこでも生きぬける力のもとをつけることだ。という方向でした。

実際は十分とは思っていませんが、「よくやっている」の評価は、少くとも方向は間違っていないし、今後の努力しだいでは、十分ものになる。ということの意味していると考えます。

もとより私達は一時の評価に安んじるものではありません。むしろ、これからの教育こそがその真価を問われるところだと考えています。

つきましては、一人ひとりの馬路の子に、確かな力がつき、ひとまわりもふたまわりも大きく成長するため、今まで以上のお力ぞえをお願いしたいと思えます。

近々大会の全国へき地教育新聞特集号が出ます。また速報やビデオもできています。機会を見てご覧下されば幸甚です。

馬路地区はもとより、魚梁瀬地区の方も含め、全村民が大会にご支援下さったことについて、厚くお礼申します。

馬路小学校
(本紙7頁に大会風景を掲載)

月間

SPOT

9 月

- 4日 造林木製材工場審議会(於役場)
- 5日 馬小校内水泳大会
- 6日 県民体育大会ソフトボール安芸地区予選(於安芸市)
- 7日 魚梁瀬高齢者教室(於魚公)
村内小学校水泳交歓会(於馬路)
- 9日 魚梁瀬敬老会(於魚公)
- 10日 中芸地区小学校水泳大会(於馬路)
- 11日 馬路敬老会(於コミセン)
- 15日 敬老の日
- 16日 キジ放鳥(於朝日出)
- 20日 魚梁瀬保育所運動会
第2回おしどりマラソン大会(於馬路)
馬路地区壮年ソフトボール大会(於村民運動場)
- 21日 交通安全運動パレード(於村内全域)
- 22日～10月2日 社会教育部落別懇談会(於各部落会館)
- 23日 秋分の日
- 24日 村内バレーボール交歓会(於馬路)
NHK視聴者懇談会(於就改センター)
- 24日～29日 9月定例村議会
- 25日 農協魚梁瀬支所起工式
- 27日 県民体育大会 馬路小、保運動会
- 28日 民生委員会(於魚公)
- 30日 馬路木材加工協同組合設立総会(於役場)

10 月

- 3日 同和教育懇談会(於就改センター)
- 4日 馬中、魚小中体育大会
- 9日 臨時村議会
農業構造改善事業工事入札(於就改センター)
- 10日 体育の日
文化講演会 三遊亭円之助・北村和夫(於就改センター)
- 13日 中芸中学陸上大会(於奈半利)
魚梁瀬はし拳大会(於魚公)
- 14日 魚梁瀬総合検診(於魚公)
- 15日 魚梁瀬神祭
馬路総合検診(於就改センター)
- 16日 農協柚子集荷場落成式
- 20日 馬路乳幼児歯科指導(於就改センター)
- 22日 魚梁瀬慰霊祭(於魚公)
- 23日 安芸郡文推協連絡協議会(於就改センター)
- 24日～26日 フェスティバル土佐ふるさと祭り(於高知市鏡川河畔)
- 25日 魚梁瀬村民運動会
- 26日 馬路慰霊祭(於就改センター)
- 27日～28日 歯科巡回診療(於魚公)
- 29日～30日 全国へき地教育研究大会国語部会(於馬小ほか)
- 30日 魚梁瀬乳幼児歯科指導(於魚公)
郡中学陸上競技大会(於芸西村)

↑10月9日魚梁瀬敬老会



↑9月16日キジ放鳥(於朝日出)

↑10月10日文芸講演会
三遊亭円之助の落語



↑10月15日馬路総合検診

↑10月25日魚梁瀬村民運動会



ゆず生産のために

さーなんと言うても100万円

村をあげて1億円

30.....青果出荷率
70.....さく汁出荷率
100.....1戸100万円
1.....全村で1億円

産地づくり

30. 70. 100. 1. 運動

生産性の向上

ウイルス樹対策

勝てる商品生産

人づくり
(意欲的農業者の育成
集落単位の研究組織)

流通加工対策

農業所得目標の設定

優良系統の探索

土作り

組織づくり

基盤整備

規模拡大

10 a 当り 2 t 収穫も可能

(植付後 (1 年苗) 4 年目で 125 ケならしている例もある……馬路)

経営指標

区分	作目名	単位	反収	出荷割合	販売額	販売費用	生産費	所得
1	ユズ	10 a	2,000kg	青果30%	626 千円	185 千円	(72) 千円	(369) 千円
				さく汁70			266	175
2	ユズ	10 a	2,000kg	青果50%	790 千円	235 千円	(72) 千円	(483)
				さく汁50			266	289

生産費(72千円)の内訳、肥料26千円、農薬20千円、諸材料費26千円。

所得()書きをみると、青果出荷率30%では約37万円、50%では約50万円となる。

生産技術を高めよう !!

教育相談所だより(4)

家庭を考える

昭和五十四年六月現在における日本の世帯数は、約三千五百万世帯と推計されています。昭和三十年と比較すると、六人以上の世帯が全体の三五・五%から九・四%と激減し、五人世帯も十五・八%から一二・三%と減っています。そして二〜四人家族が全体の六〇%を占めるようになっていきます。家庭の核家族化は急速に進んだのです。また出生率にしても、昭和二十四年頃までは、人口千人あたり三〇人前後であったのが、昭和三十三年には、一四・六九人と十年たらずで、半減しているのです。たいいていの国は、子どもの数が、五人から二人になるのに、五〇年から一〇〇年もの年月を経ているわけです。これから考えて、日本の国では、人口構成のなだれ現象がおこったと言っても言いすぎではないでしょう。この理由については、いろいろな見方があると思いますが、要するに、社会の要請と個人の価値観の変化がもたらしたものでないでしょうか。

さて、このような家庭の背景をあたまにおいて、しつけの問題を考えてみたいと思います。

一、子どものしつけは、家庭に責任があるのか、また学校や社会の責任であるのか、しばしば議論が生じます。わが国では、昔から「三つ子の魂百まで」と言われてきました。これは、乳幼児のしつけが、特に大切であることを強調した言葉でしょう。県教育委員会では、三歳児の生活としつけについて、家庭教育相談事業を行なっています。この三歳児を中心とする幼児期をどのように過すかは、のちの人生に大きな影響を与えるからです。知的な面でも、社会的な面でも、性格的な面でも、その基礎はこの時期にできるのです。親の責任は重大です。その面では、学校も保育園も、補助的役割しか果たせないでしょう。

二、家庭内では、主として誰が子どものしつけを行うかと言う点で、日本では、母親に荷がかかりすぎていると考えられます。幼児に家族の顔をかせると、父親より、母親の顔を大きくかく事が多くなったと言う話を聞きます。父親は子供にとって、影のうすい存在になっている証拠といえます。この事については、家庭として、父親として十分な反省と頭の切りかえが必要と考えられます。

三、しつけの内容ですが、アメリカ

カの子どもに比べて、日本の子どもはどうでしょう。日本では「人に挨拶をよくする」「言葉使いに気をくばる」など身近な人間関係についての指導が中心になり、「道路や公共の場所はよごさないようにする」「列のわりこみをしないようにする」「老人や体の不自由な人をいたわる」「他人にめいわくをかけるないようにする」などのしつけがあまり指導されていません。私たちの反省すべきことがらではないでしょうか。

郵便局だより



年賀状で新年のごあいさつと社会福祉等への協力を!!

— やさしく積もれ愛の一元 —

年賀状の交換は、日頃お世話になっている方や、ごぶさたしている人へのあいさつなど、心と心をつなぐ大切なコミュニケーションの一つとなっています。

十一月五日(木)から発売され

ているお年玉つき年賀はがきの発売数は二十六億五千万枚ですが、このうち七億枚には一円の寄付金がついています。この寄付金は、これまでに約百六十億円にも達し、社会福祉の増進に役だってきました。今回からは新たに、文化財の保護を行う団体と青少年の健全な育成のための社会教育を行う団体にも、寄付金が交付されることになりました。

今年も、新年のごあいさつと社会福祉等への協力をしませんか。なお、今年の年賀はがきの配分は去年よりだいぶ少なくなっておりますのでお買求めはお早願います。

一、お年玉くじ抽選日
昭和五十七年一月十五日(金)

二、お年玉の品名及び当選割合等

品名	当せん割合	当せん本数
1等 オカ レコ ラジ オテ レセ ター	(寄附金つき) 4本に1本 (寄附金なし) 3本に1本	8,650本
2等 折りたたみ式自転車	(寄附金つき) 2本に1本 (寄附金なし) 1本に1本	33,500本
3等 手紙セット(便箋、封筒、グランド)	1000本に2本	5,300,000本
4等 お年玉切手シート	100本に3本	79,500,000本

— 年賀状の差出し準備を —

年賀状の準備はもうお済みですか。

あて名を書いたり、印刷をしたり、版面を作ったりするのに、意外と時間がかかるものです。特に年末は何かと忙しくなります。お早めに年賀状を作成していただき、十二月十五日の開始日には差出せるようにご準備ください。

なお、年賀状の作成にあたっては次の点にご注意ください。

一、あて先の住所には、アパート名、棟番号、室番号や「〇〇様方」、「〇〇ビル」などの肩書を略さず詳しくお書きください。

なお、郵便番号も赤い記入ワクの中に、一字ずつ正しくはつきりお書きください。

二、差出人の郵便番号、住所も詳しくお書きください。

三、受取人が転居されているにもかかわらず、旧住所にあて差出すことがよくあるものです。転勤、転居のあいさつ状、新住所表示の通知状、暑中見舞状などにより、早めに住所録を整理していただき、正しいあて先をお書きください。

四、迷子郵便物が毎日たくさん出ております。あて先は正しくはつきりとお書きください。

同和学習、部落巡回

懇談会を終えて

9月22日(10月2日(7日間))

同和問題は「……その早急な解決こそ国の責務であり、同時に国民的課題であるとの認識に立って対策の探究に努力した」と国の同和对策審議会答申の前文で規定され、それは人間の自由と平等に関する問題であり、日本国憲法によって保障された基本的人権にかかわる課題であるからとされています。

ところが、教育委員会や同和教育研究協議会の催す村民を対象とした同和教育、被差別部落問題についての研修会、学習会への参加を呼びかけても参加者が少なく、また参加者の顔ぶれがいつもいっしょであるのが馬路村の現実であります。そこで馬路村においても同和問題が村民一人一人の課題とされていないではなからうかということから、少しでも多くの人にお互いの疑問や日頃の考えを出し合い、同和問題に対する認識を高め、同和教育の底辺の広がりを目指すねらいからこの懇談会を計画しました。

懇談会は、「差別と人権の歴史」という同和学習の映画を30分程度見るにより話し合いのきっかけを作って、それへ教育相談員、教育長が助言してい



↑東川会館にて

く方法をとりました。7時30分頃から懇談会を始めると、講演会方式と違って参加者が村民の知人同士だけであるという場であるためか、日頃の疑問点や核心に触れた質問が続出し10時終了が時間延長となる部落もありました。参加者は少ない部落で5人、多い部落で17人、参加者0人の部落もありましたが7部落で合計65人の参加があり、発言の中には、「そうか、知らざったよ」「けど、そうは言うても」など、色々な内容があり、その都度、助言者より適切なアドバイスがありました。

参加者の多くは予想以上に同和教育に限らず社会教育研修会等に初めて参加する人が多く、部落長さんの人集めの努力がうかがえ、お世話いただいたPTAや婦人会など関係者にお礼申しあげます。

魚梁瀬体育会安芸地区代表に

県民体育大会ソフトボール安芸地区予選



↑県民体育大会入場行進

県民体育大会秋季大会は、九月二十七日に高知市を中心として開催されましたが、それに先立ち九月六日に行なわれた、ソフトボール安芸地区予選、青年男子の部で本村代表の魚梁瀬体育会が代表決定選で芸西村を8対2で敗り安芸地区代表として参加しました。

なお、二十七日の大会には、本村から青年男子ソフトボールと、一般女子バレーボールが参加しましたが、残念ながら、共に一回戦で敗退しました。

冬の暖房

火の用心と換気の用心

燃えているロウソクにコップをかぶせると……。小学生の時に習った理科の実験を思い出しましょう。

ロウソクの火が消えてしまっことは、もうお分かりですね。物が燃えるためには、空気の中に含まれる酸素が必要なことは、言うまでもありません。

それでは、物が燃えるにはどのくらいの空気が必要なのでしょう

か?例えば、都市ガスを燃やすには、千キロカロリあたり約〇・九立方メートルの空気が必要とされています。つまり、家庭で使われているガスコンロを一時間続けで使用する場合は、ドラム缶十二本分、小型ガス瞬間湯沸器だとドラム缶三十六本分の空気が必要ということになります。

閉めきった部屋で、寒いからと、ストーブやコンロをつけっ放しに

していると、燃焼に必要な空気の量が不足して不完全燃焼を起こします。頭痛やめまいを感じたら、酸素欠乏症か、二酸化炭素中毒。場合によっては、命をも失いかねません。火を使うときは、「火の用心」はもちろんのこと、「換気の用心」もお忘れなく。

また、物が燃えるときと同じように、わたしたち自身も空気中の酸素を吸収し、二酸化炭素とともに、わずかの一酸化炭素を出しながら生きています。火を使わない部屋でも、換気には十分気を配ることが大切です。

なお、建築基準法では、建築物の換気設備について規定と技術基準を設けています。家を新築、増改築するときは、建築基準法を確認し、安全で快適な住まいづくりを心掛けましょう。

第2回魚梁瀬地区はし拳大会

魚梁瀬地区はし拳大会は十月十三日に行なわれ、団体戦は、優勝・小中学連合チーム二位・丸山Aチーム、三位・営林署経理課チームの順でした。また、個人戦は、優勝・手島幸男さん、二位・岩崎久晴さん、三位・五百蔵尚さんの順でした。



↑ 公開授業
中に入れない先生は
廊下から



29日受け付け



↑ 分科会

総合案内には臨時の
赤電話と臨時郵便局
も設けられました

全国へき地教育研究大会 スナップ集



↑ 忙しかった速報係



↑ 馬路小児童による鳴子踊り披露



↑ 協力校発表 魚梁瀬小ミュージカル

馬路俳句会

千鶴子

彼岸花顔をうすめし石地藏
荒れし庭今年も隅の菊ゆれる
増してくる夜寒棕櫚の葉さしむ音

六佐

寂光院にて二句

水澄みて寂光の寂人の群

寂光の秋の日に座するうたけし
新葉の香の満ちたりし昼餉かな

善心

めざむれば半月ありて空速し

御堂はや菊いっぱい浄土なり
窓越しに灯の速き夜寒かな

亀寿

居待月久しくなりし波の音

秋草や振り向く人のなき山路

コスモスの背きて咲けり山の家

百合子

孫娘声なきわが家菊の紅
豊年や稲架竹伸ばし又伸ばし
若者よ村に帰れと菊紅し

梨花

移り来てなじまぬ里のうろこ雲
雲さやか菊花の如くひろがり
稲刈りて子等を守りし星もありき

眸

秋日濃し白壁こぼれつつきおり
怖ろしきまでひっそりと秋日中
茎細き籬の菊や微恙あり

弥生

露を追いつ追いつながら畠打っており
山暮れぬ思わぬ案山子足もとに

枝移る刺虫の列夕曇り

雅子

宵闇に岩打つ波は遠い国

秋の蝶黄金の波に波しぶき

半袖にそつたを羽織る夜寒かな

高子

残る蚊をあちこち追いて昔恋ゆ

秋彼岸経読みあぐる後影

秋海棠文読みあきし時に見る

城山子

戻ることできぬ年齢や花老荷

秋の夜や故里は灯を疎らにす

園児らの紅緒の草履秋しぐれ

好子

ほほずきの少なくなりし雨の村

高新を配り終りて秋しぐれ

彼岸花畦はみだして乱れけり

ご存じですか 人名漢字54字増えました

生まれてきた子への最初のプレ
ゼント——それは、名前を付けて
あげることです。わたしたちは「名

が体を表す」ように願いをこめて、
子への深い愛情と夢をその名に託
します。

ところで、この名前に使える漢
字が、今年の十月一日から増えた
のをご存じでしょうか。

今まで子供の名前に使える漢字
は、千九百七十文字（当用漢字表ブ
ラス人名漢字別表・同追加表）で
した。これが、常用漢字表等の制
定により、二千百一十一文字（常用漢
字表ブラス新人名用漢字別表）に
なりました。つまり、百四十一文字
増えたことになりました。

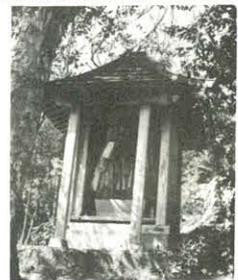
この中で、新しく人名用漢字別
表に仲間入りしたのは「赴」「莱」
「遼」などの五十四文字（別表参考）。
今まで認められなかった「赴夫」
や「遼太郎」などの名前もOKに
なりました。

名前は「もう一つの顔」として、
一生ついてまわるもの。それぞれ
の思いをこめて、ステキな名前を
考えてあげたいものです。

人名用に新採用の54字

伍 伶 侑 堯 孟 峻 嵩 嶺 巴
彬 惇 惟 慧 斐 旦 昂 李 栗
楓 槿 汐 洵 洸 渥 瑛 瑤 璃
苑 茉 莉 萌 萩 蓉 露 虹 諒
甫 皓 眸 矩 碧 笹 緋 翔 脩
赴 迪 遥 遼 霞 頌 駿 鳩 鷹

伝説散歩



子袖地藏

子袖地藏（相名）

熊野神社の登り口のすぐ横に
ある。

大きなアオモチの木とカシの
木があるが、それが一つになっ
た、珍しい夫婦木である。

お堂をみると、カネの緒がい
っぱいあがっている。

ここは、こどものできない人
に、子どもをさすけてくれるお
地藏さまである。

こんなにお詣りがあるとい
うことは、よっぽど子どもが欲し
い人が多いということだろう。

お地藏さまというと、なんと
いっても子どもと関係が深い。
だから、どこの町や村へ行つて
も、「子育て地藏」「子安地藏」

という風に、子さすけや、安産
それに子どもが病気をせずす
こやかに育つようという親の
願いからか、お地藏さまがまつ
られている。

市原麟一郎著
『雲西伝説散歩』より

「こめい」福をお祈りします

「こめい」福をお祈りします

氏名	性別	行年	亡月日	世帯主	続柄	部落
萩 茂喜	男	53	9・5	代美子	夫	中ノ川
清岡 米次	男	81	9・15	文雄	父	相名
門田意菟馬	男	74	9・30	久	養父	魚梁瀬
山 中一	父	茂	美智	赤ちゃん	続柄	月日
岡 林 榮	母	真智子	茂之	長男	10・3	影
畠 中 浩	由 香	亮 太	二男	10・7	朝日出	
坂 本 誠	敬 子	麻 里	長男	10・15	日 浦	
乾 慶 順	静 香	慶 史	長女	10・21	相 名	
			長男	10・25	朝日出	

ふるさとへのたより



広報うまじでは、『ふるさとへのたより』というコーナーを設けており、仕事などの関係で故郷馬路村を遠く離れて、生活をしている方々から、家庭の状況など近況をお知らせいただき、掲載させていただきます。お待ちしております。

本号では、高知市在住の清岡信光さん、横浜市在住の三宅俊郎さんのお便りを掲載させていただきます。

私と田舎

清岡 信光

私の家に広報「うまじ」が届けられる度に、家族で楽しみに拝見させていただけいております。まさか今回、私がこのようにお便りを書くことになるとは思いもよりませんでした。……。

私自身は小学一年を終えると、父の転勤について、各地を転々としたため馬路についてよく知らない

い事も多く、また、私を御存知ない方も馬路には多く居られること

と思います。現在私は高知で教職につき、自分自身が育まれ、今の私の趣味でもある陸上競技を通じて、生徒達と汗を流す毎日を送っております。朝から夜遅くまで、休日も年間数える程しか休むことのできないクラブ活動に集中しておりますが、限られた休日に馬路へ帰るのは大変楽しみな事でもあります。子供達を祖母達に逢わすことも、私自身の気分転換も兼ねた馬路行なのであります。

馬路には、美しい空気、よごされていない自然の山野があり素晴らしい。冬の厳しい寒さ。春の美しい木々の芽立ち。夏の涼風吹きぬける澄み切った川。秋の紅葉。いつの刻でも、仕事の疲れを忘れさせる田舎の風物ですが、よく夏には安田川の流れて鮎釣りを楽しまます。日頃の雑用を捨て切って、無心で楽しめるのが何よりの私の休養であります。

離れて田舎を眺めると、田舎の祭事、祝事など隣人同志一緒に汗を流し、又村の発展の為に努力し合っている様子もまことにうれい。やはり田舎はいいと感じるのであります。今後、最大限、それ

その関係者が横の連絡をもっともっと密にして、一つの目標の元に努力して、自然の中の田舎を作ってほしい。

安田川で漁を楽しむ私に「おまんどこの子やったのう？」とそんな言葉が、いつまでも続く田舎であってほしいのであります。

(高知農業高校教諭)

ほのぼの馬路に寄せて

三宅 俊郎

ふるさとの香いをブンブン感じさせてくれる広報、ありがとうございます。編集に携わっておられる方々に只々敬意を表します。

横浜に住みついて四十三年、これが退職金の計算に使われた数字でもある訳ですが、こんな私も世に言う鼻ツたれ小僧の年を何時の間にか脱皮して、ふるさとらしいふるさと馬路のあることが無性にうれしく思っています。

俊一、理恵子、二人の子供も人並に育ち夫々片付いた今、愚妻、義母の三人暮らし、目下の所8ミリ三昧と言う所が見掛け丈は優雅そうな毎日を過している次第です。これも日本に居る時の話で近々又南米ベネズエラのアンデス山中へ出掛ける事になりそうです。学校では何時も英語が落第点だったナア等と言っていられない此所十数年、こんな仕事に携わっていて、それが英語だったり、ポルトガル

語、スペイン語だったり、行く先々で言葉の不自由さばかりつくづく感じています。

この五月、忠魂墓地タワシ掛けの同窓会は四十八年振りのこと、タツプリ旧交を温めることが出来ました。その時、影、日浦、相名の道を足で歩いて見て子供の頃えらく遠く感じた道が意外に近かったり、歩いている人を殆んど見掛けなかった事がとても印象的でした。何時までもほのぼのうまじのイメージを大切にしたいものです。皆様のご多幸お祈りします。

(東芝エンジニアリング(株)勤務)



三宅 俊郎さん

村外にお住みの馬路村出身の方、このコーナーへ原稿をお寄せください。

その際、ご家族で写された写真があれば同封してください。

送り先

高知県安芸郡馬路村
馬路村教育委員会内
広報うまじ編集係宛

12月1日は省エネルギーの日

毎月1日は「省エネルギーの日」です

くたつ 厚手で大きめのくたつ掛けや、くたつ敷きで保温に心がけましょう。

みんなそろって明るなお正月を



「歳末たすけあい運動」

にご協力を
12月1日～25日

最高齢、夫婦あわせて一三四歳

第二回おしどりマラソン大会

昨年に引き続き、馬路おしどりマラソン大会が九月二十日(日)に村内外から九十二組百八十四名の参加により第二回大会として開催されました。参加者のうち、最高齢の人は高知市の安藤清勝・富与子さんご夫妻で、夫婦そろって六十七歳ということでした。

閉会式では、高知大学教授八波浩・和子さん夫妻が、「共に励まし、いたわり合って仲良くゴールインすることを誓います。」と宣言。午前十時十分、村長のピストル



→選手宣誓は高知市の八波浩・和子さん夫妻「共に励ましいたわり合ってゴールインすることを誓います。」

を合図にスタートし、全員元気よく完走し、完走証、トロフィーほか記念品が手渡されました。参加者の中には、お父さん、お母さんについていっしょに走る子どもの姿も見られ、沿道から盛んな拍手が贈られていました。

閉会式では、馬路婦人会の方々によるアトラクションほか、団体参加の伊野町枝川走ろう会の方々などから参加の感想を述べてもらったりしました。

また、閉会式で特別賞を授けられたのは、次の方々です。
最高齢夫婦賞 安藤清勝・富与子夫妻(高知市)あわせて百三十四才
最若年夫婦賞 徳弘辰彦・きょう子夫妻(高知市)あわせて五十三才

市) 親子二代カップル賞 八波浩・和子夫妻(高知市)・長男



↑安藤清勝・富与子さん夫妻(二人あわせて132歳)

夫婦 淳一・聖子夫妻(土佐市) 遠隔地参加賞 西森常晴・淑子夫妻(吾川村名野川) 木下安吉・明子夫妻(須崎市安和) 吉川俊一・節子夫妻(大豊町穴内)

開催功労賞 山脇幸一・保子夫妻(伊野町枝川) ビッター賞

(村長の予想タイム19分46秒に最も近い記録) 北川鉄男・愛子夫妻(高知市 19分45秒) 平山崇・

照美夫妻(馬路村 19分47秒) 第二回大会記念賞(二回を記念し

二位のカップル) 常光賢司・嘉子夫妻(高知市) ブービー賞

福島勇・雅子夫妻(馬路村) 中間賞(四十六位) 橋田典弘・

暁子夫妻(馬路村) ベストおしどり賞(最も仲良く走った夫婦)

小野洋尚・速子夫妻(佐川町) 松岡数躬・操夫妻(土佐市)



↑受け付けは昨年以上にそがしく……



→村長さんのピストルでスタート



↑馬路小鼓笛隊



→私たちも参加させてよ



→ラストスパート